

令和3年度 神奈川県野生鳥獣による農作物被害の概況

令和4年8月 自然環境保全課作成

神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課

1 はじめに

日頃より「野生鳥獣による農林水産物被害等調査」にご協力いただきありがとうございます。農家の皆さま、市町村、農業協同組合、森林組合等のご協力のもと実施した調査結果をご報告いたします。調査結果は、各地の鳥獣被害対策の効果把握、対策検討の基礎資料として活用させていただきます。

2 令和3年度の農作物被害の傾向

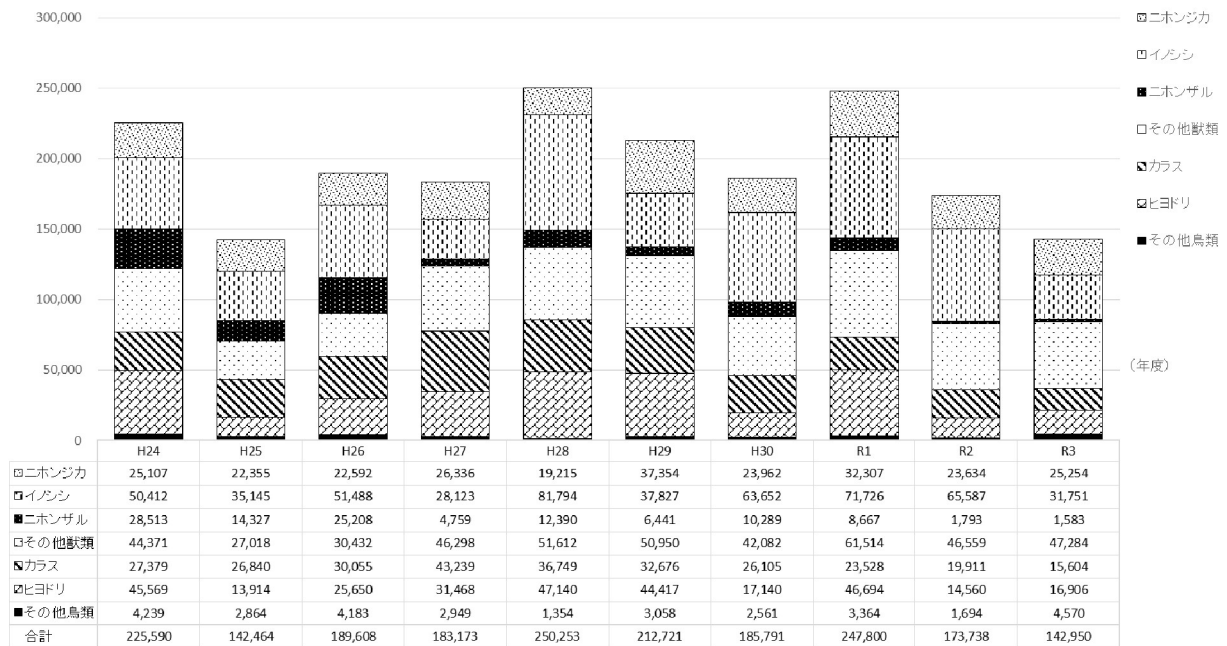
令和3年度の野生鳥獣による農作物被害額は、約1億4千万円で、前年度に比べ約3,100万円の減少となっています。被害額が多い鳥獣は、イノシシ約3,200万円、シカ約2,500万円、ハクビシン約2,300万円となっており、この3種で全体の56%を占めています。

【参考】神奈川県ホームページ《神奈川の野生鳥獣と狩猟のページ》

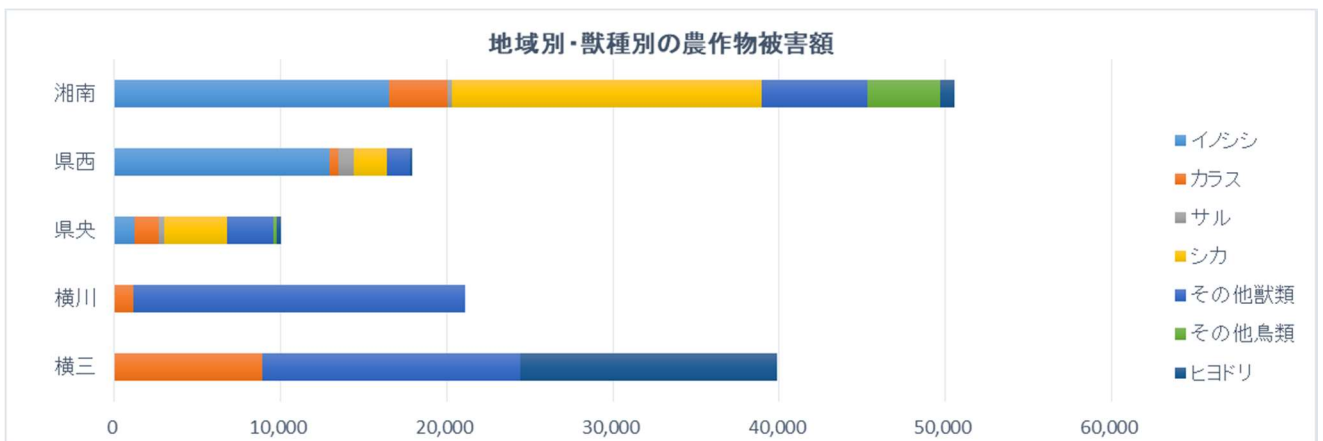
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f986/>

(単位千円)

農作物被害額の推移



※被害額は、千円止めで四捨五入していることにより、合計値は一致しない場合があります。

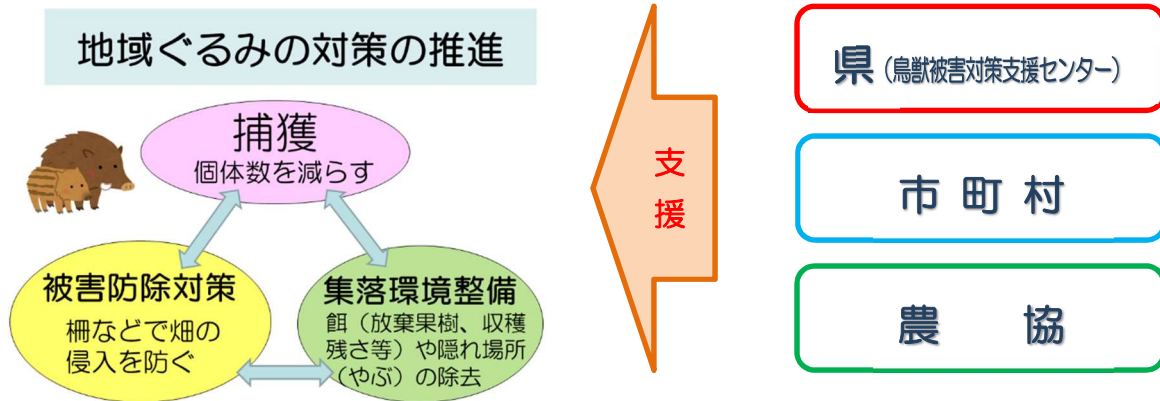


3 鳥獣被害対策のポイント

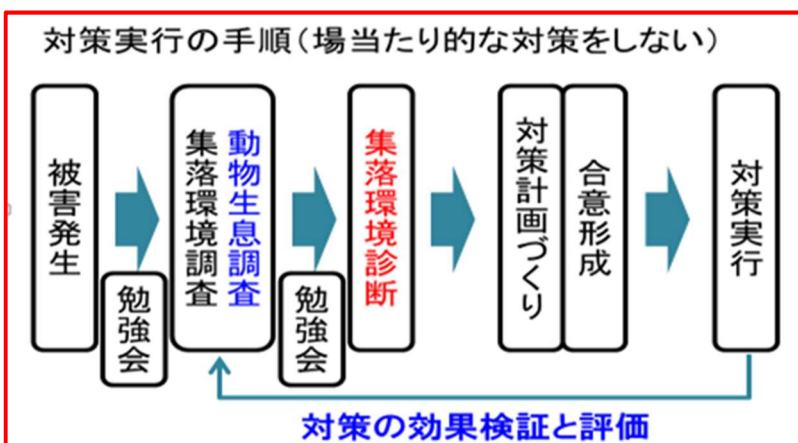
○対策のポイント

鳥獣被害対策は、集落環境整備、被害防除対策、鳥獣の捕獲の3つの基本対策を地域が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」が効果的であることが明らかになっています。

県でもこの「地域ぐるみの対策」を広げていくため、市町村、農協、地域の方々と連携しながら効果的な対策の提案、技術支援、効果検証の支援を行っています。



○ある地区での「地域ぐるみの対策」の取組み事例



田畑の周辺にひそみ場が・・・



刈払い、間伐で見通し良く！

<地域の課題>

- ・山際の田畑でのイノシシの被害が顕著である。
- ・田畑の周辺に野生鳥獣のひそみ場になるヤブ、竹林がある。
- ・田畑へ野生鳥獣を寄せ付けてしまう放棄果樹（エサ）がある。
- ・電気柵から農作物がはみ出てしまっている。

<取組内容>

- ・ヤブの刈払い、竹林の間伐により田畑周辺の見通しを良くし、ひそみ場をなくした。
- ・果樹を管理しやすい高さに剪定し、放棄果樹をなくした。
- ・電気柵の外に果実が出ないように、果樹の剪定、電気柵の設置を行った。

<成果・今後の課題>

- ・ヤブの刈払い、電気柵の設置を行った田畑では被害がなかった。
- ・対策を知らない方が多い。個人の取組みだけでなく、地域ぐるみでの取組みに繋げていく。